

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年12月25日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

○2023年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します

2 質疑項目

○2023年を振り返って

○2023年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

○今年を表す「漢字」「一句」について

1 発表事項

○2023年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します

(議長)ただ今から12月の議長定例記者会見を開催いたします。本日は発表事項が一つございます。2023年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表させていただきます。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」は県議会の活動内容を広く発信することで、県民の皆さんに県議会への関心を持っていただくとともに、参加意識を高めていただけるよう、県議会のホームページやe-モニター等を活用して、県民の皆さんに投票いただき、これらを参考に毎年選定・発表しているものでございます。最初に、今回、投票いただいた皆さん、本当にありがとうございました。また、報道関係の皆さま方にはPR等をご協力いただき、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。選定結果は発表事項の1ページに掲載の10項目でございます。選定にあたっては副議長とともに相談させていただいて、3ページの投票結果を踏まえ、県民の皆さんや議員の皆さんから得票の多かった、10項目、結果として総得票数の上位10項目を選定したところでございます。今回の投票結果を見ますと、得票数が最多だったのは、ナンバー4の「物価高騰等に対する支援を1日でも早くお届けできるよう取り組みました」という項目でございました。やはり、昨今の物価高騰、エネルギー価格の高騰が県民生活に与える影響が大きいということだと思えます。引き続き議会としてもしっかりと取り組んで参りたいと存じます。また、ナンバー5の「子どもや障がい者への虐待を許さないために全力で取り組んでいます」そして、ナンバー9「子どもに一層寄り添った政策の立案に取り組んでいます」の得票数も多くなってまいりました。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中で、子ども政策への県民の

皆さんの関心が一層高まっているのだと受け止めております。「子どもに関する政策討論会議」の座長として、次代を担う子どもたちのための提言をしっかりと取りまとめなければならないとの思いを一層強くしたところでございます。来年も議会が一丸となって、県民の皆さんからの負託に全力でこたえ、県民福祉の向上等に向けた活動を展開してまいります。発表事項は以上でございます。

2 質疑項目

○2023年を振り返って

(質問) 10項目、活動ベスト10ということで発表いただきましたけれども、この内容かこの内容以外かに関わらず、今年最後の議長会見でありますので、議長として、特に県議会を1年振り返っていかがであったかなど特に印象的なことをお願いします。

(議長) 4月に、いわゆる統一地方選挙がございまして、48人の新たな体制で、議会活動がスタートしました。私も5月に議長に選任をいただいて以来、精一杯務めさせていただき、副議長にお支えいただく中で、先日、令和5年第2回定例会の会期を終えることができたわけでありまして、2023年を振り返って、印象に残ったことを少し述べさせていただきます。一つは議長という立場もございまして、所信表明で「子どもに関する政策討論会議」と「再生エネルギーに関する検討会」について申し上げて、それぞれを設置したところでございます。特に「子どもに関する政策討論会議」については、私が座長となり、議論を重ねてきたところでございまして、先日、12月6日には、私と副座長であります杉本副議長とで、知事に対しまして「子どもに関する施策の早期実施に向けた申し入れ」を、来年度当初予算にも間に合うタイミングとして申し入れをさせていただいたところでございます。知事に対して提言を、改めてまた年度末に、3月の末ですけれども、知事に対しまして、それを網羅したすべての子どもに関する提言を行うことを考えてございまして、現在は、それに向けてさらに議論を続けているところでございます。もう一つは、第三期となる議会活動計画というのを策定し、ご案内させていただいたところでございますが、これは今期4年間のいろんな取り組み、主な取り組みなど、評価の仕組みを前任期の議会からの提言を踏まえて、取り組まれたものでございまして、三重県議会が続けてきた議会改革の根幹になっているものでございます。所信表明でも挙げたものでございますけれども、全議員の理解と協力のもと、改選後、直ちに策定できたこと、またこの計画に基づき県民福祉の向上等に向けて、速やかに議会活動をスタートできたことに安堵したところでございます。幸いにこの取り組みが結果として、第18回マニフェスト大賞議会改革賞をいただいたということで、議会改革の必要性やそ

れを継続することが非常に大切と再確認をしたというところでございます。年が明けますと1月18日に新たな会期がスタートします。まずは2月定例会議において、令和6年度の当初予算についてしっかりと審議できるよう、副議長とともに議会運営に取り組んでまいりたいと思っているところでございます。細かいところはたくさんありますけれども、総論的には良いことも悪いこともあったのではないかというのはこれ現実ですけど、またご質問があればお答えさせていただきます。

(質問) 悪いことは何ですか。

(議長) 執行部の、報道されている不祥事であったり、それから、議会関係でいくと、提案をしていただくタイミングが少しずれたというか、遅れたり、それから、決定的なのはやはり議案間違いがあるとか、こんなことを非常に議会としては、執行部に対して良くないということを改めてしっかりと、苦言を呈したというのが正しいですかね、そんなことがあったというのはあまり良くないのではないかなと思います。

(質問) 閉会の挨拶のときの、あのようなニュアンスですね。分かりました。

(議長) そうですね。表明もさせていただいたので、それぞれの場所で、そのタイミングで言わせてもらっていますし、特に県内では、虐待による不幸な事件があったということで、これやはり原因究明なり、再発防止のために県議会から執行部に強く申し入れもさせていただいたのもあるわけであります。そんなことがいろいろと1年間振り返ってあります。

(質問) 続いて、副議長にもお尋ねしてもよろしいでしょうか。あなたが選ぶ活動ベスト10を踏まえて、それ以外でもですけども、特に印象的であったこと、議長にもおっしゃっていただいたので、来年の抱負も含めて。

(副議長) 私は広聴広報会議の座長を務めさせていただいておりますので、その立場で今年度振り返ってみますと、一番最初に、県民の皆さまの関心をどう高めていくか、その声をどう聞き取っていくかっていうことが役割です。中でも、やっぱり若者にどうアプローチするかっていうことを常に考えながら今年度の活動を進めてまいりました。広聴広報会議の委員の皆さま、本当に熱心にこの間ご議論いただきました。11月に伊勢市で開催しました、みえ現場 de 県議会において、多くの若者の皆さんに参加をさせていただいて、皆さんからの意見に、私も

含めて、その場にいた議員が大いに刺激も受けましたし、本当に活発に意見交換ができたと思っております。来年になりますけれども、2月に川越町で、続いて、若者を対象として、第2回みえ現場 de 県議会を開催させていただきたいと思っております。今その準備を進めているところであります。今年、この1年間はやっぱり若者にターゲットを絞ってと思っております。それから、広報紙のデザインや内容など、広報の今後についても検討を続けている項目もありますので、今後も引き続き、広聴と広報の両面で開かれた議会を実現できるように、来年も頑張っていきたいなど思っているところです。以上です。

(質問) ご発言の中で、この1年は若者にターゲット絞ってという、この1年というのは今年1年という意味か、来年1年は若者にターゲットを絞りたいというニュアンス、どちらですか。

(副議長) 私が務めさせていただいている2023年度。

(質問) 2023年度からの1年という意味ですね。

(副議長) そういう意味です。

○2023年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

(質問) 正副議長それぞれにお尋ねしたいんですけど、改めてこの活動ベスト10の結果を見て、感じた部分、ご感想というところをそれぞれ教えていただけますでしょうか。

(議長) ありがとうございます。得票数をいろいろと見たんですね。県民の声というのは、多くの声がそこでのベスト10というのと、e-モニターさんのいろいろと順位もあって、足し算すれば、「あなたが選ぶ」ということですので、県民のお声が、それとe-モニターを足したものが県民の声ではないかなと。ところが、我々当然、議会議員にも投票してもらっているんですよ。それも出ているんですよ。この3つの部門というよりも、県民というのは県民とe-モニターを足したものでありまして、今までは、県民の声のベスト10はこれ、それから、e-モニターさんはこれ、実は議員が選んだベスト10はこれとか、過去そういうのを分析しながら、ベスト10同士が3つ揃うと、重なるのがあります。6つ7つ8つとか、8つ重なれば、当然ベスト10に入ると。残った2つどれを選ぶかというのが、いろいろとそのうちの2つのところが多いとか、そういう決め方をしてきた。それはそれでいいんです、それは意味があつて。でも、よく考える

と「あなたが選ぶ」でして、やはり、あわせて総得票数でいこうと、それで何が言いたいかというところ、議員の選んだベスト10と違うということです。議員以外の県民が選んだベスト10が違うというところ、そこがポイントです。何がポイントかといいますと、やはり県民はそう見ているのかと、議員はそう考えているのかということです。議員の考えているベスト10には、やはり県民に伝わっていないところが、もしかしたらそこにあるのではないかというのがポイントなんです。だから、議員自らがベスト10を選んだことだけで、県政を進めるのはよくないと。やっぱり、県議会議員が選んでいなかった、選んでも票が少なかったものでも、県民が選んだ方が多かったということは、そこに、やはり何か意味があるということで、そんな例を言い出すときりがありませんけども、例えば花とみどりの条例を作ったのが、議会議員では結構票が多かったんですよ。我々作ったんだから。ところが、県民から見るとまだ伝わっていないとか、効果が出ていないとか、まだまだこれからということだと想定されます。よって、我々が作った条例は、非常に大切ですので、県民の代表が、選ばれた議員が選んだわけですので、そういうことは、今後県に対しまして実施、具体的に県民へ伝わるように行動して、いわゆる県として物事がどんどん進んでいけば、あの時の条例よかったなど。やっぱり議会が作った議提条例は、非常に成果を出したな、というように言われるようにしないといけないということが分かったわけです。細かいところ、そういうところは、感想、正直なところということでございまして、議員が一方的に、これがいいとか、そういうことは良くないのではないかというのが、改めてわかったので、正副議長とも多分よく似た考えだと思いますけど、我々の議員に、それをちょっと伝えようと思っているんです。どういう方法かは別として、結果を今日、今発表しましたので、各議員に送付する際、ちょっとコメント入れておいた方がいいのかなと、事務方と打ち合わせしていませんので、この後また打ち合わせしますけれども、そんなことがポイントではないかと感じております。

(質問) ありがとうございます。副議長いかがでしょうか。

(副議長) 議長とほぼ同じなんですけれども。県民の皆さんが選んでくださったのは、物価高騰に対する支援とか、子どもや障がい者の虐待、それから、子ども政策っていうのが高得票だったんです。やっぱり日々の生活に繋がっているとか、密着しているものに対して、非常に関心が高かったっていうところ。議員は少しそれとずれがあります。私はそのずれがとても興味深かったです。広聴広報を預かる立場としては、やっぱり県民が知りたいと思う県政の情報と、私たちが届けなければとか、届けるべきって思っている情報にずれがあるっていう

ところがすごく大事で、今後の広聴広報の活動に、そのあたりは反映していく必要があるなっていうこと今回改めて実感させていただきました。以上です。

(質問) お二人とも意見は似ていらっしゃったと思うんですけど、そのこの県民が知りたいことと県議会の議員の皆さんが力を入れてる部分の乖離っていうのは、それは特に別に悪いことと捉えてるわけではなくて、そのこの県民の知りたいことっていうのも、さらに踏まえた上で、今後それぞれの議員さんの活動に取り組んでいくっていうような理解でよろしいのでしょうか。

(議長) そうですね。副議長おっしゃるとおりで、やはり県民の票数見たら分かるということで、別にそれは、県民はそこにポイントがあるというのがよく分かったということで、議員というのは当然こちらが発信しているので、当然分かってくれているだろうと、このように思いがちなところがあるのを、真摯に受けとめやなあかんのかなと。伝わっていないところがあるのかなというのが正直のところでございます。今後は、県民の声を十分に聞くということは、このテーマである、「あなたが選ぶ」と、議員が選ぶじゃない、「あなたが選ぶ」というところに、やはりベスト10というのは、意義があるのかなと思いますので、そのとおりです。

(副議長) 広聴広報を担わせていただいている立場としては、限られた紙面の中で、やはりその両方をどうバランスを取っていくかというところが大事だなっていうことを思わせていただいております。

(議長) 追加で今若者の話が出ましたので、実は予定してなかったけども、全国都道府県議会議長会があるじゃないですか、この全国議長会では、100周年の時に、若者や女性も含めた、多様な人というか、いろんな方々に参画する、関心をもってもらうことが、非常に重要であるということ宣言したんです。それを受けて、たまたま偶然というか、当然同じ方向だったもので、私はたまたま副会長をしていましたので、会長のところへ行って、三重県の副議長は女性です、60年ぶりということもあって、その話題にして、会長県である富山県さんの副議長さんも女性というのが、当時分かったわけです。それから全国の議長さんの中で唯一、徳島県の議長さんが女性です。そんな中で、これはやはり女性活躍というか、女性が参画するというのか、政治に対して、政治とかいろんな意味で、女性の参画が世界中でも、低いということは言われてます。やはり、地方議会でもそういうことをしっかりと関心を持って、女性の参画、女性が議員になることも含めて、若者と、そういうところをセットにして、全国議長会の会長さんのところ

へ、徳島県の女性議長さんと一緒にいった。全国都道府県議長会でも、ちょっとなんかテーマを決めて、活躍の場を何度か具体的に会議をして、提言してもらうことはどうですかという、幸いにそれが、徳島県議会の岡田、女性の議長さんと、私どもの副議長とで、全国ですので、いろんなバランスもあって、女性正副議長おられない地域は若い議員が、それを12月に発足していただいたんです。1月にまた第2回があるそうなのですが、3月に一定の何かおまとめをしていただけるように聞いてまして、これ非常に、私が言うのもなんですけども、私がこの言いだしっぺということもあって、それを受けて、杉本副議長がいろんな発言をしたり、全国の中で女性議員としての立場、若い人たちの発信の仕方を今、現場d e県議会も含めて、そういうことを、自慢話じゃなしに、こういうやり方もありますよということ、実践を報告しながら、年度末に、女性、若者たちに関心を持っていただくような地方議会、ということ、提言をいただいて、次なる年度へとこのように持っていきたいなど、このことを今進めてまして、ちょっとご紹介させていただきたいなど。三重県議会の話じゃない部分が一部ありましたので、せっかく若者で今テーマをやっていただいている中で、またちょっとアシストしないと。いつも支えられてるばかりで。

(質問) 副会長就任はこれ、候補にも上がらなかったんですか。

(議長) 対外的なことであってね、そんな候補に上げるには、それはあれです、与えられた職、徹底してやるわけで、それをこちらから望んで、頑張っ、そこに行ったとかいうことではないわけですよ。

○今年を表す「漢字」「一句」について

(質問) 恒例の字は今日用意していただいているんですか。お得意の一句で今年を振り返っていただければ。

(議長) マスコミの皆さまからご期待されているということもあり、本来はこちらが積極的に準備するつもりはなかったですけども、ご期待に沿うほうがいいのではないかとということで、一句も用意させていただきました。

(質問) 聞きます。

(議長) 聞かれるということもあって、10分前に実は書きました。まだ、一句は乾いてないです。今聞いたら、毎年今年の漢字があつて、前議長も前々議長もずっとやっているの、事務方から準備してくださいという感じだったので、ま

ずそれを出します。

(質問) 順序は字から。

(議長) どちらでもいいですよ。やっぱり楽しみは後の方がいいのでは。まず、これは人偏に言葉と書いて通称「信」といいます。人の発する言葉は信ずるに足りるということがあるように、どれだけいいことをしようと思っても、相手に伝わらなくてはいけない。信頼されていない者からどれだけ言っても駄目。ましてや、信用されていない者がいくら言っても疑われるだけで「また言っているのか」と全然伝わらないということがある。やはり議長という立場、議員という立場からすると、いろんな方々に、マスコミの皆さま方にも、また県民の皆さま方にも私の発する言葉が伝わってほしいと、伝えてほしいということも込めまして、人偏に言葉の「信」という字を今年選びました。その「信」という言葉は、議長選挙でも、信任投票というか一人であっても、どれだけ私に票を入れてくれたかということも「信」に関わってくるのです。そういうこともあり、多くの方に票をいただくということは、その責任を感じたということで「信」ということ。また、「どういうとき」や「2年以内が」とかいう色々な質問をされましたが、そういうときは信を問うと言ってこの「信」を使わなくてはいけないわけですよ。そういうことをございまして。副議長にもこれを披露させていただき、事務方にもこうやって初めて見せる。これは昨日書いた。

(質問) 話題としては、その信任投票、信を問うの「信」である。それ以外に例えば今年のニュースと出来事と絡めて何かありますか。

(議長) そんなのは言い出したらきりがありませんよ。信に足りないことがいくらかでもあるじゃないですか。要するに、信頼を裏切るとか、県政の信頼を損ねたとかということが。一部の職員によって、県民に対して県政の信頼を裏切ったとか。信頼を取り戻さなきゃいけないと知事も仰っています。その信頼を取り戻すためには、この「信」という字をしっかりと県の職員や、我々議員それぞれが発する言葉には十分慎重にしないと。言葉尻ではありませんけども、私も冗談言いますが、ちょっとした冗談が変な伝わり方すると、「議長、今何言った」と言われそうな気がしますので、気をつけなくちゃいけないという自戒を含めて、この言葉を選ばせていただきました。これが昨日できたので、今日一句を作ったんですよ。これにふさわしい一句がないかなということで。副議長に相談したら色々ともた誘導されやすいので、相談をせず。いつも相談してというのはあれやけども、相談しなくてもしたとかいうときあるやんか。そうじゃなしに、実はある人と相

談したんですよ。これはちょっと言えませんが、ある人に相談して、二つ作って一つを選んでもらったというのが正しいかな。というのは、悩んだんですよ。

(質問) とりあえず一句お願いします。

(議長) はい。「年の瀬に人と言葉で信となる」。ここは年の瀬「や」ではなく、年の瀬「に」ということは、「今」という意味が「に」に入っています。人と言葉というのは、人偏に言葉ということ。人は人となり、人みずから、資質、お人柄という人です。言葉というのは、同じ言葉でもどういう発し方をするかによって、「信」となるか「信」とならないかというところが問題なんですね。冗談で言っても、妙に伝わると良くないということは、「信」となるということはやはり大切だと。人が発する言葉が「信」に足りるということと同じ、我々議員も議員として人として、やはり県民にまたそういう認められるというか、言葉も中森の言うことは、議長の言うことは、副議長の言うことは、やはり伝わるということでないといけないということを、我々正副議長ともども、議員全体としても言えるのではないかとということで、「信」となるわけです。「信」とならなければいけないということは、信頼され、信用され、というような、正副議長そして議員として、また、人として、70歳になった私もそういう人生の中で、「信となる」、これを今、幸いの機会にご披露させていただいたということで。この一句が、そろそろこれで一句集の最後として、最後のページを飾るのではないかと、こんなことを来年から編集に入ろうかなと思うけども、編集してくれる人を今探しますんで、募集中でございまして。

(質問) 退任の時も一句作っていただければ。

(議長) こういうリクエストされると、非常になかなかね、なかなか希望、希望というか、ことにつきましては、どこでもね、対応できないとけないのかなというのは、大事かなと思います。なかなかね、最近、季語を入れるようになってきた。今まで入れてないですよ。一句やから、俳句とは言ってないから。最近はやはり、ちょっと、芭蕉さんじゃないけど、季語を入れることによって、ちょっと趣というものが出ますね。季語をわざわざ入れなくてもいいんだけど。違う枕言葉でいいんだけど、やっぱり、川柳よりかやっぱり、俳句の方が趣あるのかなというような感じが今最近ようやく分かってきまして。20年経って、21年目できるよう分かってきたんですよ。句を作りながら。四苦八苦の「苦」とは違いますが。これは冗談でした。すいません。ということで、この1年どうもありがとうございました。我々のために記者会見に応じていただきまして、感謝申し上げます。

ながら、皆さま方にとりましても、いい年になりますように、ともどもをよろしく
お願い申し上げながら、本年最後とさせていただきます。来年またお会いでき
るのを楽しみに。ごきげんよう。さようなら。

(以 上) 11時03分 終了